

評価の観点	思考・判断	単元	球技 バasketボール (3年生男子)	実践日時	R 1 年度
本時のねらい	相手の状況に応じて、速攻か遅攻を判断して攻めるゲームができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：前時の意識に基づいた課題設定】

・生徒が主体的に目的意識をもって課題を達成していくために、現在の自分やグループの運動の様相から、生徒の意識を前時とつなげながら、課題の必然性・技術ポイント・練習方法の3つを明確にした。また、前時の困り感やもっと上手になりたいという意識があった場面を取り上げ、それらの内容を板書し、目指す姿と比べて交流することで、本時の課題を明確にした(板書画像参照)。自分達課題だと認識して、解決に向かうことで生徒の意欲を引き出すことにつながった。

【手立て②：課題や練習方法を設定させる】

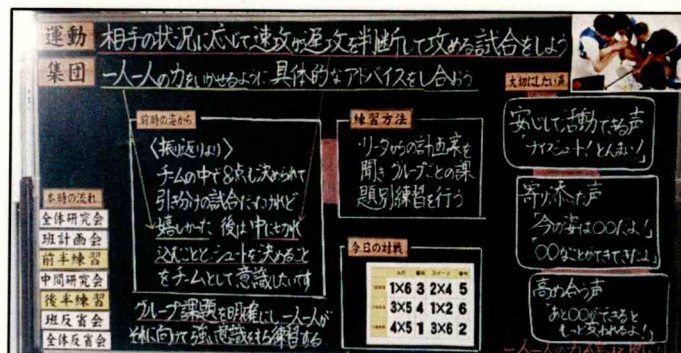
・3年生のBasketボールの学習では、リーグ戦前になるとグループごとに課題が大きく違ってくる。そのことに着目し、ゲーム記録表を積極的に用いたグループ計画会の中で、自分たちの課題に基づいた練習方法で追究できるようにした。そのため、リーダーを中心に、前時のゴールやパスの成功状況、仲間一人一人の動き方をもとに練習計画表を作成させた。

【手立て③：深い学びにするために】

・試合後のグループ反省会で、リーダーやPOを中心にできたことと、できなかったことをはっきりさせた。「自分たちの実態を捉える」→「実態に合った練習を行う」→「できたこと、できないことをはっきりさせる」ことを繰り返し指導した。その際に、前時や単元中盤と終盤の動きを比較させたり、目指す姿にどれだけ近付いたのかを確認させたりすることで、自分が技術を習得したことによってどのように変容したのかを具体的に実感させた。



<板書、生徒の作品、ノートなど>



1 本時のねらい

- ・相手の状況を見て、速攻か遅攻か判断して攻めるゲームができる。
- ・一人一人の力を生かすために、具体的にアドバイスするグループになることができる。

2 本時の展開 (12 / 14)

条件 過程	学習内容・学習活動		教師の指導と評価		
	運動	集団	運動	集団	
計画	<p>相手の状況を見て、速攻か遅攻か判断して攻めるゲームをしよう。</p> <p>・既習事項の確認と自分たちの課題に応じた練習をすることの有用性を整理する。</p> <p>いよいよリーグ戦だ。今までの学習の成果を生かして、信頼し合える仲間と一緒に優勝を目指すぞ。</p>		<p>・Lを集め、今日の学習内容や各グループの前時までの課題を確認しておく。</p> <p>【評価規準】 相手の守りの状況を見て、速攻か遅攻か判断して攻めることができる。(思考・判断)</p> <p>【生徒の学習状況】 相手の守りの状況を見て、速攻か遅攻か判断して攻めている。</p> <p>【評価の方法】 ・後半練習のリーグ戦での様子 ・グループ反省会での発言</p>		
	グループ計画会	<p>◇グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の様相から具体的に本時の動き方を考える。 ・作戦ボードと練習計画表を使い、グループ課題に必要な技能の確認や練習方法の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題意識に基づいた交流ができる姿を目指す。 ・MOからそれぞれの役割を果たすことが、勝ちに貢献することにつながることを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定している目標が実態とずれている場合には、アドバイスをする。 ・グループ目標を達成するための個人の目標も設定しているか、見届ける。 <p>【実態を見届ける】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加しながら活動が進んでいるかを見届ける。 ・仲間を求める内容を話している生徒を認め、それがグループを向上させることにつながることに気付かせる。
展開	練習	<p>◇前半練習</p> <p>◇グループ練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速攻や遅攻の動きをつかむためのグループの実態に応じた練習。 ・グループごとに練習計画を作成し、リーダー中心に練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動き方や技術ポイントが分からない仲間へ身振り手振りを使ってアドバイスをする。 ・グループやグループの仲間の特徴を生かした練習ができる様に、実態に応じたアドバイスをする。 ・うまくできた時にも、成功した時の感覚を想起させたり以前の動きと何が変わったのかを比較したりして、粘り強く練習に取り組む。 ・前半練習でできるようになったことを明確にし、次の試合に向けての見通しをもつ。上手くできない仲間には、再度技術ポイントの整理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習計画表をもとに、グループ課題に応じた練習が行われているか、確認する。 ・練習が上手く理解できていない場合は、教師が方法を示したり、アドバイスをしたりする。 <p>【学習状況を見届ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の目標に沿った動きや指示がある姿を認め、全体に広める。 ・動きや声掛けがよい生徒を見つけた場合には、Lに声をかけ、その生徒の言動に着目させながら「なぜそうしたの?」と問いかけさせながら自分の考えを形成させる。 ・ゲームの中で練習の成果が出た場合は、すかさず大きな声で認める。 <p>【定着状況を見届ける】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・L、PO、MOに、仲間の具体的な伸びを見つけ、よさを認めたり、伝えたりするように指示する。 ・課題に応じたアドバイスを、身振り手振りを使って合っている姿をほめる。 ・Lを集め、目指す姿と仲間の動きがどの位違うのかを具体的に説明できるようにアドバイスする。 ・不安を感じながら活動している生徒には個人目標に立ち返り、グループ全員で解決策を見出させる。 ・うまくできない仲間に対して、その状況に応じたアドバイスをし、全員で成長しようとしている姿を価値付け、全体に広める。 ・ゲーム中にはコート内外から積極的にアドバイスをさせる。
	中間研究会 練習ゲーム	<p>◇中間研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半練習を振り返り、練習ゲームに向けて、技術ポイントやフォーメーションの確認をする。 <p>◇後半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦 (5分×2) ・相手の状況を見て、速攻、遅攻を使い分けている姿を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの目標に沿ったアドバイスの声や励ましの声をかけ合いながら活動する。 ・メンバーの励ましに真剣に応え合うゲームができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦での様相を振り返り、グループが授業前の姿と何が変化したのかを比較しながら考えさせる。 ・グループの実態をもとに、次時の目標とする姿について根拠をもとに話せように促す。 ・目標と手段が明確になっていると、グループが高まることを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦ボードやゲームの様相をもとに、個人の目標がどれくらい到達できているのかを確認させる。 ・うまくできない仲間に対して、目指す姿に近付くために具体的な関わり方にこだわったグループを価値付け全体に広める。 ・仲間のプレーを自分のことのように喜ぶことができる姿を価値付ける。 ・勝ちにこだわり真剣にプレーする姿を価値付ける。
評価	<p>◇グループ反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合の様相をもとに、グループや個人の成長を確かめる。 ・できたこと、できないことをはっきりさせる。 <p>◇全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すゲームの姿が達成できたか振り返る。 <p>相手の状況を見て、速攻や遅攻を使い分けることができた。相手の守備が整う前に、速攻をすることや守備が整ったときに、慌てずに遅攻をすることは有効だと改めて実感できた。自分たちの課題をもとに、速攻や遅攻の練習方法を考えることは大切なことだ。次のリーグ戦では、さらに自分たちの得意とする攻め方や、一人一人の動き方を整理し、実態に合った作戦を立てることで、勝利を掴みたい。そして、一人一人が自分の成長を実感できるようなバスケットボールの授業にしたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間を大切にして学習できたかを振り返る。 ・具体的な成長を認め合える仲間になれたか振り返る。 ・どんな学び方が成長につながったか交流する。 		

評価の観点	技能	単元	球技 バレーボール (3年生男子)	実践日時	R1年度
本時のねらい	三段攻撃につなぐために、相手のアタックをブロックやブロック隊形を使ってボールを拾うゲームができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：前時までのデータの活用】

・グループごとにゲーム記録を取っている。ゲーム中に落下した（自陣に落ちてしてしまった）場所を記録させることで、2枚ブロックによる方向付けがしっかりとできていることを理解させた。そして、方向付けができてボールを意識的に落としている場所に対して、適切なポジションを取ればボールを拾うことができるという意識づけができた。



【手立て②：仲間との技術ポイントの獲得】

・相手のスパイクに合わせてブロックを跳ぶだけでは、隣にいる仲間と動きをそろえて同時に跳ぶことは難しい。そこで、ボールの動きに合わせて、「左、左」と移動する方向を一緒に声を出して確認させた。そして、跳ぶ時には「せーの！」と声を合わせて飛ばせたり、身振り手振りを交えたアドバイスや、上手く行った時に認める声かけをしたりするなど、グループ全員で関わるようにさせた。



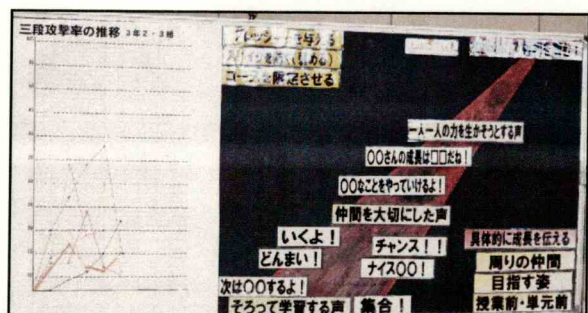
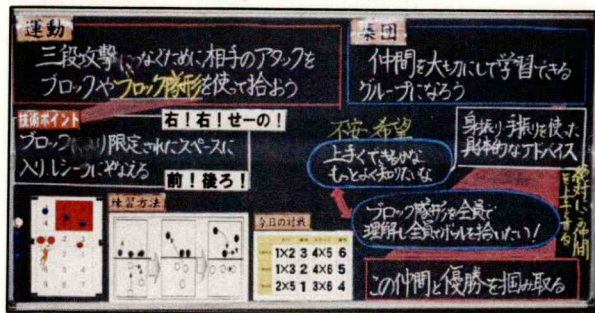
【手立て③：深い学びにするために】

・ゲーム記録の中で、本時の課題であったブロックの成果を確かめさせる。数値での変容があまりない場合もあるので、そういった場合はゲームでの印象的な場面や個を取り上げた。

・学習の過程を振り返る時には、「どうして勝てたのか」→「ブロックやブロック隊形が成功したから」→「なぜそのようなブロックやブロック隊形ができるようになったのか」→「〇〇さんが～のように教えてくれたから」「～という技術ポイントを意識して～な練習ができたから」と仲間との関わりや技術ポイントの両面を大切にしたらこそ変容したということを認識させた。



<板書、生徒の作品、ノートなど>



1 本時のねらい

- ・三段攻撃につなぐために、相手のアタックをブロックやブロック隊形を使ってボールを拾うゲームができる。
- ・仲間を大切に学習できるグループになることができる。

2 本時の展開 (9 / 14)

過程	条件		学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
	運動	集団	運動	集団	運動	集団
計画	<p>三段攻撃につなぐために、相手のアタックをブロックやブロック隊形を使って拾うゲームをしよう。</p> <p>・前時の様相を振り返り、グループでブロックやブロック隊形を使って守ることの必要性を理解する。</p>		<p>仲間を大切に学習できるグループになろう。</p> <p>・上手くできない仲間に必要なことを考えながら、グループ全体で向上していく関わりができる。</p>		<p>・Lを集め、今日の学習内容や各グループの前時までの課題を確認しておく。</p> <p>【評価規準】 三段攻撃につなぐために、相手のスパイクをブロックやブロック隊形を使って守ることができる。(技能)</p> <p>【生徒の学習状況】 三段攻撃につなげるために、相手のスパイクに対しブロックやブロック隊形で守ろうとしている。</p> <p>【評価の方法】 ・後半練習の練習ゲームでの様子 ・ゲーム記録表</p>	
	全体計画会	グループ計画会	<p>◇グループ計画会</p> <p>・前時の記録表や様相から具体的に本時の動き方を考える。</p> <p>・作戦ボードを使い、ブロックに必要な技能の確認をする。</p>		<p>・設定した目標が実態とずれている場合には、ゲーム記録をもとに、アドバイスする。</p> <p>・グループ目標を達成するための個人の目標も設定しているか、見届ける。</p> <p>【実態を見届ける】</p> <p>・全員が参加しながら活動が進んでいるかを見届ける。</p> <p>・仲間を求める内容を話している生徒を認め、それがグループを向上させることにつながることに気付かせる。</p>	
展開	練習	中間研究会	<p>◇前半練習</p> <p>・相手のスパイク合わせてブロックに跳ぶ確認をする。</p> <p>例:「左、左、せーの!」</p> <p>・ハーフコートの3対3練習で、ブロックのタイミングと、レシーブをする位置の確認をし、捕球後は素早く攻撃の意識をもつ確認をする。</p>		<p>・動き方や技術ポイントが分からない仲間以身振り手振りを使ってアドバイスをしたり、掲示物などを使って考えたりする。</p> <p>・うまくできた時にも、成功した時の感覚を想起させたり、以前の動きと何が変わったのかを比較したりして、粘り強く練習に取り組む。</p>	
	練習ゲーム	練習ゲーム	<p>◇後半練習</p> <p>・練習ゲーム(5分×2)</p> <p>・ブロックやブロック隊形を積極的に使っている姿を目指す。</p>		<p>・練習の意図がグループに浸透していない場合は、一旦練習を止め、練習方法の確認をしたり、ゆっくりとボールの動きを確認したりする。</p> <p>・練習方法が上手く理解できていない場合は、教師が方法を示したり、球出しをしたりする。</p> <p>【学習状況を見届ける】</p> <p>・各グループや個人の課題をグループボードで確認し、今日の目標に沿った動きや指示がある姿を認め、全体に広める。</p> <p>・動きや声掛けがよい生徒を見つけた場合には、Lに声をかけ、その生徒の言動に着目させながら「なぜそうしたの?」と問いかけさせながら自分の考えを形成させる。</p> <p>・ゲームの中で練習の成果が出た場合は、すかさず大きな声で認める。</p> <p>【定着状況を見届ける】</p> <p>・Lを集め、目指す姿と仲間の動きがどの位違うのかを具体的に説明できるようにアドバイスをする。</p> <p>・不安を感じながら活動している生徒には個人目標に立ち返り、グループ全員で解決策を見出させる。</p> <p>・うまくできない仲間に対して、その状況に応じたアドバイスをし、全員で成長しようとしている姿を価値付け、全体に広める。</p> <p>・ゲーム中にはコート内外から積極的にアドバイスをさせる。</p>	
評価	反省会	反省会	<p>◇グループ反省会</p> <p>・ゲーム記録や試合の様相をもとに、グループや個人の成長を確かめる。</p> <p>◇全体反省会</p> <p>・本時の出来栄を振り返る。</p>		<p>・仲間を大切に学習できたかを振り返る。</p> <p>・具体的な成長を認め合える仲間になれたかを振り返る。</p> <p>・どんな学び方が成長につながったか交流する。</p>	
	反省会	反省会	<p>ブロックやブロック隊形を使ったことで、相手のアタックを防ぎ、自分たちの三段攻撃ができるチャンスが増えた。もっと、ブロックの練習をして一人一人が自信をもって活動できるように、チームで動き方の確認をしたい。そして、攻撃の大半を三段攻撃でできるようにしたい。</p> <p>仲間が身振り手振りを使って、具体的にアドバイスをしてくれた。また、前の自分から成長したことを、根拠をもとに伝えてくれた。だから、自分の成長を実感できた。今後も、こんな学び方を大切に、上手くなっていきたい。</p>		<p>・ゲーム記録や本時の姿をもとに、ブロックやブロック隊形を使ったことで、グループが授業前の姿と何が変化したのかを比較しながら考えさせる。</p> <p>・次時の目標とする内容の根拠が話せように促す。</p> <p>・目標と手段が明確になっていると、グループが高まることを話す。</p> <p>・グループボードやゲーム記録をもとに、個人の目標がどれくらい到達できているのかを確認させる。</p> <p>・うまくできない仲間に対して、目指す姿に近付くために具体的な関わり方にこだわられたグループを価値付け全体に広める。</p> <p>・仲間のプレーを自分のことのように喜ぶことができた姿を価値付ける。</p>	

評価の観点	思考・判断	単元	球技 バレーボール (3年生男子)	実践日時	R 1 年度
本時のねらい	練習プログラムを設定し、目標や手段を明確にして取り組むことができる。				

＜主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について＞

【手立て①：前時までのデータの活用】

・生徒が主体的に活動に取り組むためには、現在の自分たちの様相と運動習熟の道すじに基づいた目指す姿を比較し、課題点を明確にしていく必要がある。そこで、単位時間の導入では、複数のデータや資料などから自分たちの状況を客観的に捉えられるようにした。本時では、リーダーは「ブロックをつけて守り、三段攻撃を使って攻めるゲーム」を目指し、グループに足りないことや前時の困り感があった場面を取り上げ、目的や手段が設定された練習プログラムを作成した。それをもとに、グループの状況を再確認し、目指す姿と比べて交流することで、グループに必要な技術ポイントを確認した。



【手立て②：仲間との技術ポイントの獲得】

・自他の状況にあった技術ポイントを用いて活動させれば、より具体的で活発なグループ練習が行えると考えた。そこで、単元や単位時間ごとに技術ポイント・練習方法・アドバイスの仕方について記載した「技術分析表」を作成した。これをもとに、仲間の運動状況と理想とする姿を比較し、技術ポイントや練習方法を伝え合うことで自他の状況に応じた的確なアドバイスができることをねらった。グループ計画会の際に、技術分析表に立ち返ったり、練習プログラムに応じた具体的なアドバイスを互いに行ったりすることで、仲間の運動状況を分析的に捉えさせていくことができた。

技術分析表(3年生)

相手の攻め方に応じて、ブロックをつけて守り、三段攻撃を使って攻めるゲーム

相手の攻撃を聞いて、自分の攻撃につなげる。そのために、ブロックをつけて守り、3本を安定したリズミで攻める。相手の攻め方に応じて、ブロックをつけて守り、三段攻撃を使って攻めるゲーム。

＜ブロック＞
・ネットの上でボールを押し合う状態を維持し、ネットの上でボールを押し合う状態を維持する。
・ボールの動く方向に合わせてブロックを移動し、タイミングを合わせる。
・ボールがネットを越えたらすぐにボールを打つ。

＜三段攻撃＞
・ネット上でボールを押し合う状態を維持し、ネットの上でボールを押し合う状態を維持する。
・ボールの動く方向に合わせてブロックを移動し、タイミングを合わせる。
・ボールがネットを越えたらすぐにボールを打つ。

スイッチプレーを使い、セッターやアタッカーの役割に応じて攻撃を組み立てるゲーム

スイッチプレーを使う。セッターやアタッカーの役割に応じて攻撃を組み立てるゲーム。

＜セッター＞
・ボールを高く高く上げて、相手コートに落とす。
・ボールの動く方向に合わせてブロックを移動し、タイミングを合わせる。
・ボールがネットを越えたらすぐにボールを打つ。

＜アタッカー＞
・ボールを高く高く上げて、相手コートに落とす。
・ボールの動く方向に合わせてブロックを移動し、タイミングを合わせる。
・ボールがネットを越えたらすぐにボールを打つ。

3本のリズムを安定させ、スパイクで攻めるゲーム

3本のリズムを安定させ、スパイクで攻めるゲーム。

＜スパイク＞
・ボールを高く高く上げて、相手コートに落とす。
・ボールの動く方向に合わせてブロックを移動し、タイミングを合わせる。
・ボールがネットを越えたらすぐにボールを打つ。

【手立て③：深い学びにするために】

・本単元では、グループボードを使って、個人やグループの課題に対して、一人一人の動きは具体的にどうだったのかを交流させる。①今の自分と前の自分と比べて何が変わったのか②今の自分と目指す姿はどのくらい近づいたのか③自分と仲間と比べるとどんな動きが違うのかと客観的なデータやゲーム記録などをもとに、比較する場面や対象を明確にすることで、自分が技術を習得したことによってどのように変容したのか具体的に実感させた。

＜板書、生徒の作品、ノートなど＞

G 色練習プログラム

練習目標 相手の攻め方に応じて、ブロックをつけて守り、三段攻撃を使って攻めるゲームをしよう

練習の目標性 練習目標達成のために

準備の目標性	準備の目標性
準備の方法	準備の方法
準備の道具	準備の道具
準備の場所	準備の場所
準備の時間	準備の時間
準備の服装	準備の服装
準備の道具	準備の道具
準備の場所	準備の場所
準備の時間	準備の時間
準備の服装	準備の服装

準備の方法

準備の道具

準備の場所

準備の時間

準備の服装

1 本時のねらい

- ・練習プログラムを設定し、目標や手段を明確にして取り組むことができる。
- ・互いに高め合って学習できるグループになることができる。

2 本時の展開 (9 / 14)

過程	条件		学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
	運動	集団	運動	集団	運動	集団
計画	全体計画会		<p>練習プログラムを設定し、目標や手段を明確にしてグループや個の技能を高める練習をしよう。</p> <p>・前時の様相を分析し、グループ課題に応じた練習内容を確認する。</p> <p>今まで学習したことを使い、得意な攻撃の仕方だけでなく、グループの弱点を分析して、自分たちに合った練習に取り組み、全員がブロックをつけて守り、三段攻撃を使って攻めるゲームができるようになりたい。</p>	<p>互いに高め合えるグループになろう。</p> <p>・仲間へ真剣に要求したり、仲間の要求に真剣に応えたりすることができる。</p>	<p>・Lを集め、今日の学習内容や各グループの前時までの課題を確認しておく。</p> <p>【評価規準】 練習プログラムを設定し、明確にされた目標や手段を意識しながら取り組むことができる。(思考・判断)</p> <p>【生徒の学習状況】 目指す姿を具体的にもちながら、練習プログラムで設定した練習をしている。</p> <p>【評価の方法】 ・グループ計画会や反省会での発言 ・前半練習や練習ゲームでの様子</p>	
	グループ計画会		<p>◇グループ計画会</p> <p>・Lから、前時の記録表や様相から具体的に本時の練習方法を提案する。</p> <p>・グループボードを使い、本時の練習方法によって身に付ける、必要な技能の確認をする。【目標を設定する】</p>	<p>・仲間の小さな変化を具体的に伝えられるように関わる姿を目指す。</p> <p>・MOからそれぞれの意見がグループを高め、勝ちに貢献することを確認し、仲間の様子を積極的に見つめさせる。</p>	<p>・設定している目標が実態とずれている場合には、ゲーム記録や運動習熟の道すじをもとにアドバイスをする。</p> <p>・グループ目標を達成するための個人の目標も設定しているか、見届ける。</p>	<p>・一人一人のよさやグループの状況をもとに練習方法を設定しているか見届ける。</p> <p>・仲間に要求している生徒を認め、それが全員で勝利を目指すことにつながることを確かめる。</p>
展開	練習	<p>【練習プログラム】</p> <p>1. 前時の自分たちの様相や落下地点分析表、接球表、三段攻撃率などからグループの状況を捉える。</p> <p>2. 自分たちの弱点やよさを明確にする。</p> <p>3. 技術分析表をもとに、グループの弱点を克服したり、よさを伸ばしたりする練習方法を設定する。</p> <p>4. チーム目標に応じた個人目標を交流し、一人一人の目的意識を明確にする。</p>			<p>・練習の意図がグループに浸透していない場合は、一旦練習を止め、目標や手段の確認をする。</p> <p>・うまくできた時にも、成功した時の感覚を想起させたり以前の動きと何が変わったのかを比較させたりして、粘り強く練習に取り組む。</p> <p>・各グループや個人の課題をグループボードで確認し、本時の目標に沿った動きや指示する姿を認め、全体に広める。</p> <p>・動きや声掛けがよい生徒を見つけた場合には、その生徒の言動に着目させながら「なぜそうしたの？」と問いかけさせながら、考えを形成させる。</p> <p>・ゲームの中で練習の成果が出た場合は、すかさず大きな声で認める。</p>	<p>・L、PO、MOに、仲間の具体的な伸びを見つけ、よさを認めるように指示する。</p> <p>・課題に応じたアドバイスを、身振り手振りを使って行っている姿を認める。</p> <p>・Lを集め、目指す姿と仲間の動きがどの位違うのかを具体的に説明できるように再確認する。</p> <p>・不安を感じながら活動している生徒には技術分析表をもとに既習事項を振り返り、グループ全員で解決策を見出させる。</p> <p>・うまくできない仲間に対して、状況に応じたアドバイスをし、全員で成長しようとしている姿を価値付け、全体に広める。</p> <p>・ゲーム中にもコート内外から積極的にアドバイスをさせる。</p>
		中間研究会	<p>◇前半練習</p> <p>・グループごとに作成した練習プログラムをもとに、リーダー中心に練習を行う。</p> <p>◇中間研究会</p> <p>・前半練習を振り返り、練習ゲームに向けて、技術ポイントやフォーメーションの確認をする。</p> <p>◇後半練習</p> <p>・練習ゲーム (6分×2)</p> <p>・グループ課題を意識し、ブロックをつけて守り、三段攻撃を使っていく姿を目指す。</p>	<p>・動き方が分からない仲間に身振り手振りを使ってアドバイスをしたり、技術分析表などを使って要求し合ったりする。</p> <p>【仲間と学び、仲間から学ぶ】</p> <p>・前半練習でできるようになったことを明確にし、次の試合に向けての見通しをもつ。上手くできない仲間には、遠慮せず、再度技術ポイントの整理し、ゲームでの目指す姿を考える。</p> <p>・グループの目標に沿ったアドバイスの声や要求の声をかけ合いながら活動する。</p>		
評価	反省会	<p>◇グループ反省会</p> <p>・ゲーム記録や試合の様相をもとに、グループや個人の成長を確かめる。【自己を振り返る】</p> <p>◇全体反省会</p> <p>・本時の成長を共有し、次時の見通しをもつ。</p>		<p>・仲間のよさを見つけながら学習し、互いに要求し合いながら具体的な成長を認め合える仲間になれたか振り返る。</p> <p>・どんな学び方が成長につながったか交流する。</p>	<p>・ゲーム記録や本時の姿、本時の練習プログラムをもとに、グループが授業前と何が変容したのかを比較しながら振り返らせる。</p> <p>・次時の練習プログラムを本時の実態をもとにグループボードを使って話せるように促す。</p> <p>・目標と手段を明確にして取り組んだグループが高まった事実を価値付ける。</p>	<p>・グループボードやゲーム記録をもとに、目指す姿と個人やグループの姿がどれくらい到達できているのかを確認させる。</p> <p>・うまくできない仲間に対して、目指す姿に近づく具体的な関わり方ができたグループを価値付け全体に広める。</p> <p>・グループ課題を意識し、積極的に取り組む姿やグループの一人として粘り強く練習できた姿を価値付ける。</p>
		<p>グループの様相を分析し、練習プログラムを組んで活動することで技術ポイントに必要性をもって練習することができた。ブロックをつけて、三段攻撃をするために自分たちの課題や良さを見つめ、目的や手段を明確にして行くことはとても大切だと実感できた。だからこそ、次時は□□なことにもこだわって、練習プログラムを組み、もう一歩成長したい。</p> <p>仲間が身振り手振りを使って、具体的にアドバイスをしてくれた。また、できるようになるまでやるべきことを要求し続けてくれた。だから、自分の成長を実感できた。グループの仲間と高め合えた事実は次への意欲につながるな。</p>				